

利き手じゃない手で箸を持つ



上谷英史 講師

では早速、一つ質問。あなたがもし、利き手をケガして使えなくなった時に、ラーメンを食べたい!と思ったらどうしますか?利き手じゃない手で箸を扱うのはかなりハードルが

動き分析 指導法開発

利き手をケガした時でも、ラーメンを箸で食べるには? 探究心旺盛な中高生の皆さんに向けて、弘前大学の先生たちのユニークな研究を紹介する連載の第三回は「利き手じゃない手で箸の持ち方」の研究です。



(((3)))

す。ところが現状、作業療法士の持ち方を真似してもらったりはしますが、明確な指導法がないためうまくいかず、途中であきらめてしまう人もいます。そこで本学の上谷(かみたに)英史(ひであみ)先生の研究チームは、しっかりと根拠のある数値を使った

と考えたのです。このコツで、箸使いがうまくなるかも? 実験は、利き手じゃない手での箸使いがうまくいこうと、親指が箸先方向に向かないよう気を付けるだけでも、箸使いがうまくなる可能性がある、ということ。一週間ほどで結構上達することも分かっている。気になる方はどうぞ試してみてください。

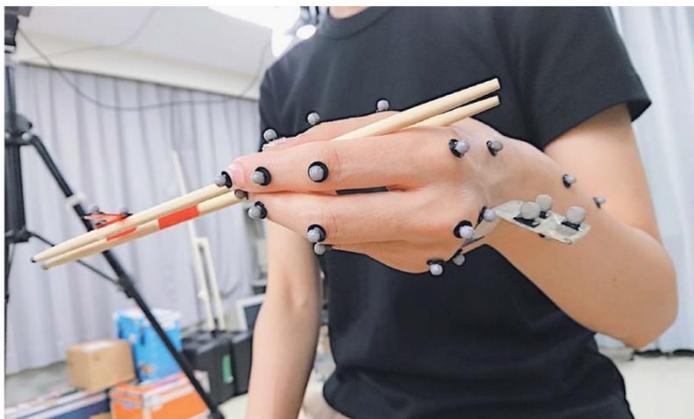
と、操作能力が低下することが判明しました。つまり、コツとしては親指が箸先方向に向かないよう気を付けるだけでも、箸使いがうまくなる可能性がある、ということ。一週間ほどで結構上達することも分かっている。気になる方はどうぞ試してみてください。

高いですよね。こんな悩ましい状況が、リハビリの現場では実際にあります。肩折や、脳卒中のように麻痺の出る病気などで利き手が使えない患者さんが、もう一方の手を使って箸で食べたいと希望するケースです。

指導法を開発しようとして検証実験を行いました。例えば、それぞれの指を箸の何センチの所にあてればいいのかといった具体的な数値です。それが分れば指導も明確に、かつ効率的になる



イラスト・弘前大学教育学部 ひとじ玲汰



研究写真

ちなみに、利き手じゃない手ですることが増やすために、今後は文字の書き方なども解明していくとのこと。楽しみですね! 最後に、上谷先生からのメッセージ。 「作業療法において、患者さんは食事や着替など日常の様々な動作を練習します。そこ

とがまだたくさんある。興味のある方はぜひ一緒に解明していきましょう!」

第3回の先生 上谷英史講師

【大学院保健学研究科 総合リハビリテーション科学領域】【医学部 保健学科作業療法学専攻】

■質問を大募集 ひろだい探偵団では今回の上谷先生の研究

について、あなたが思う「なして?」を募集。中!後日、紙面でお答えします。質問は左の二次元コードからどうぞ。次回は9月6日に掲載予定です。

(担当:弘前大学研究・イノベーション推進機構)



当コーナーに届いた質問に回答します!

「質問」最近、手を消毒したり手を洗う機会が増えたと感じます。うと泡がでるのでしょいか? (弘前市内:ペインームハルさん)

「回答」石鹸の分子は水になじむ部分(親水基)と水になじまず空気になじむ部分(疎水基)を持っています。そのため石鹸分子は、水に溶けると水になじまない部分を空気中に出そうとします。そのような分子が多くなる



弘前大学理工学研究科 鷲坂将伸准教授

と、水の表面に石鹸分子が整列し膜ができます。この状態で空気と水が混ざるように力を加えると、石鹸分子の膜が水とともに空気を包み込み、気泡ができます。気泡が多く生成し、水の表面に積み重なると泡になります。

◆ 私が「なして?」にお答えしました!

※この画像は、当該ページに限って陸奥新報の記事利用を許諾したものです。 転載ならびにこのページへのリンクは固くお断りします。 令和3年8月2日 陸奥新報掲載